

家庭教育力の強化を図ろう

—子どもの生活習慣・家庭学習習慣の確立に向けた取り組みを通して—

幸田町立中央小学校PTA

1 学区及び学校の概要

本校は、額田郡幸田町の中心部に位置し、児童数500名あまりの中規模校である。児童急増対策のため昭和55年に開校した町内で最も新しい小学校として37年目を迎えている。岩堀区と横落区を学区としており、近隣の幸田小学校、荻谷小学校から分離した経緯から長い期間をかけて両区が融和し、中央小学区として定着してきている。子どもたちは素直で感受性も豊かであり、学校・地域・家庭が一体となって子どもたちを育てている。

本校のPTA活動は「会員」「安全推進」「厚生」「教養」の四つの委員会を中心に活動を展開している。活動内容の主なものは、コミュニティと合同で行う研修視察や文化展、新聞づくり、そして、交通街頭指導や防犯活動、学校保健委員会、救急法講習会、資源回収、親子ふれあい奉仕作業などがある。

2 研究のねらい

学校で実施した生活アンケートによると、朝食は食べてくるが内容に乏しい子どもが7割近くいること、就寝時刻が高学年ほど遅くなっていること、就寝時刻が遅くなる子どもほど朝食を抜いてしまうことなど、生活習慣の見直しが必要であることがわかった。また、家庭学習は時間を決めて自分から進んで取り組める子どもは3割ほどしかおらず、家庭学習に対する意識の低さを感じることもあった。そこで、PTA厚生委員会を中心となり学校と連携して、1年目は早寝早起きをし、バランスのよい朝食をとって登校する基本的な生活習慣の確立をめざす。そして、2年目からは家庭学習習慣を身につけさせることに重点をおいて取り組んでいくことにした。

3 研究の仮説

家庭と学校が双方向で互いの意見を交換していけるような場を設けたり、通信を発行したりするとともに、全校体制で「音読・生活カード」「家庭学習カード」に取り組んだりすることで、子どもたちの生活習慣、家庭学習習慣を確立させることができるであろう。

4 研究の方法

- 家庭と学校が協力し合うために、PTA厚生委員会を中心に学校保健委員会でグループ討議をして、各家庭の意見を交換する。さらに学校はその意見を集約し、今後の手だてに生かす。
- 家庭と学校をつなぎ、意見や感想を発信するために、双方向の通信「パワーアップ！中央っ子」の発行をする。
- 家庭と学校が見届けるために、全校統一の「音読・生活カード」と「中央っ子の家庭学習カード」に取り組む。

5 研究の実践と考察

(1) 学校保健委員会でのグループ討議

27年度は、基本的な生活習慣の確立をめざして取り組みを進めた。PTA厚生委員会主催の学校保健委員会では、グループ討議、報告会をもった。取り組みの方向として、全校一斉に早寝早起きや朝食の指導を「笑顔のあはは」という合言葉をもとに家庭はもちろん、学校からも働きかけていくことを確認した。日課表づくりや学校保健委員会だより「パワーアップ！中央っ子」（PTAによる名前の決定）の発行も決めた。28年度は、前年度の活動を受け「笑顔のあはは」の現状について話し合い、次のような提言が出された。



学校保健委員会で話し合う保護者

笑顔の

あさごはん 「家族そろって、好きなメニューから始めよう」
はやね 「日中しっかり体を動かして、早く寝よう」
はやおき 「朝の光をたっぷり浴びて、朝の活動目標を決めて動こう」

さらに、28年度から取り組む家庭学習習慣の確立に向けての話し合いでは、全校体制で学校も家庭も見届けられる「中央っ子の家庭学習カード」の使った取り組みが提案された。

(2) 「パワーアップ！中央っ子」の発行

朝食と睡眠の大切さを伝えることで少しずつ早寝早起きができる子どもが増えてきた。また、朝食のメニューを紹介する機会をつくったときには、各家庭の朝食メニューを参考にしながら取り組んでいる家庭も多くあった。第2号からは感想の記入欄を設け、保健室前に「笑顔のあははBOX」を設置した。家庭での子どもの様子や気をつけていること、悩みなど、多くの保護者から返信が寄せられた。「日々試行錯誤されていて、どの家庭も同じなのだと安心しました」と通信によって励まされているという感想もあった。これは、双方向の情報発信により思いを共有できた一つの成果である。

(3) 全校で取り組んだ「音読・生活カード」と「中央っ子の家庭学習カード」

全校で統一して作成した「音読・生活カード」は発達段階を考慮して、就寝時刻を調整したり振り返り方法を変えたりしながら家庭で活用できた。月末には家庭で励ましの言葉を添えたり、通信で紹介したりすることで保護者自身のやる気にもつながった。家庭学習についても、「中央っ子の家庭学習カード」を作成して月末ごとにチェックをした。家庭学習習慣を身につけさせるためにタイマーを活用したり、プチごほうびを作ったりするなど、家庭で工夫する様子があり、通信によって共有できた。

6 成果と今後の課題

学校保健委員会における話し合いを起点に、通信の発行や「カード」の活用を通して学校との連携を図った。この取り組みが情報交換の場となり、各家庭の工夫が共有できたことで意識の向上へとつながった。中でも、通信に記載される保護者の声は大きな励みとなっている。生活カードには子どもたちの生活の様子が変わってきている様子が表れていた。食育指導で来校した栄養教諭からは朝食内容の向上を認められ、学校関係者評価委員会では子どもたちの生活習慣の向上が評価された。生活習慣が身につく、落ちついて学習に取り組めるようになったという保護者の声も耳にしている。

この2年の取り組みで一定の成果は表れ、生活習慣は確立されつつある。しかし、本年度から取り組んだ家庭学習習慣の確立はこれからである。さらなる連携の方策を今後も工夫していく必要がある。